

DHC-6 の思い出 その3 エアー北海道ファン感謝デー

荒岡 衛

日本近距離航空は 1974 年に 3 機の DHC-6 を導入した。1 機は新潟—佐渡線で使用され、この路線からの撤退に伴い 1982 年 8 月に売却された。他の 2 機の所属はその後エアーニッポン、1994 年からエアー北海道に変わり札幌丘珠空港をベースに奥尻、利尻、礼文の北海道離島路線で使用された。しかし 2003 年 3 月末利尻、礼文線からの撤退に伴いもう 1 機が売却された。残った最後の 1 機 JA8797 は函館-奥尻線で活躍していたが 2006 年 3 月 31 日に有償フライトを終え、エアー北海道という会社は消滅し、路線は北海道エアコミュータに引継がれた。

この最終便には乗り損ねたが、会社の解散に先立ち利用客に対して謝意を表すファン感謝デーというセレモニーが 2005 年 12 月 10 日に函館空港で開催され、友人と共に航空雑誌の取材枠で参加した。これは定期便の空き時間を利用して函館上空を遊覧飛行するというもの。当該の機体には 11 月 27 日に伊丹から函館へのフェリーフライトに乗せて頂いたという経緯もあった。

当日は羽田発 7:40 の JL1163 で出発し函館に定刻より 30 分遅れの 9:30 に到着した。到着時空港周辺は小雪が舞っていた。そして雪の降り方はだんだん強くなっていった。DHC-6 は格納庫に入っていて小降りになった時に外に出されたものの飛行できる天候状態ではなく、定期便の奥尻行は欠航、遊覧飛行も中止され、格納庫での写真撮影と社員との懇親会だけになった。それでもコックピットにも座れるし、自由に写真撮影ができたので約 50 人の参加者は満足していた。午後になると雪はさらに激しくなり、夕方に到着予定だった東京や大阪からの便は上空まで来たものの着陸できず引き返した。私も友人も元々一泊の予定で宿を予約していたので慌てずに済んだが、最終便で帰る予定だった参加者は鉄道あるいは宿を探すのに苦労していた。

翌日はうって変わって晴天、一日ずれていたらと悔やまれた次第である。

